

【種別】

“[紅世の徒](#)”、[通称](#)

【初出】

XV巻

【解説】

“[紅世の王](#)”。[真名](#)は“[鶯距の鎧仗](#)”（しきよのがいじょう）。[炎](#)の色は空色。
『[空裏の裂き手](#)』[クロード・テイラー](#)と契約し、左を向いた鶯のバッジ型の[神器](#)『[ソアラ](#)』に意思を表出させている。
口が悪く、よくクロードのことを「腰抜け」と罵っていた。

クロードが[フレイムヘイズ](#)の使命から離れた後も契約を解除しなかったのは、彼の力が惜しかったからとのこと。

XV巻終盤でクロードから契約解除の申し出を受け、[器](#)が砕けるのと同じくして、“[紅世](#)”へと帰って行った。

【由来・元ネタ】

名前の元ネタは、ソロモンの72柱の悪魔“[鶯総統](#)”カイム（Caim）と思われる。序列53番の悪魔で、小さなツグミの姿をしている。人間の姿を取るときは、肌の黄色い男になるという。

言葉を話さず、目の前に炎で文字を書くことで意思を伝える。
動物の言葉を含めた全ての言語に通じ、それを召喚者に教えるという。

「鶯」と「距」はそれぞれ鳥類のくちばしと蹴爪を意味するが、これらは共に鳥類の闘争・殺傷のために用いる部分であり、鳥の攻撃性を表していると思われる。

そして「鎧」はよろい、「仗」は手持ちの武器を意味し、共に攻撃と防御の武具である。これらを総合して真名全体の意味を考えると「鳥の攻撃性を発露させた武具」という意味になる。

その本質の一端は、契約者のクロードが『[サックコート](#)』として表現している。

【コメント】

[アニメシリーズ](#)には未登場。

これによって“[徒](#)”側からも契約解除が可能になったことが明らかになった。

双方が合意しないと解除できないはず。

XVI巻で両者の合意が無くても解除できることが証明された。

彼の炎の色である空色（skyblue）の英語における厳密な定義は、「夏の晴天の午前10時から午後3時までの間、水蒸気や埃の影響の少ない大気の状態におけるニューヨークから50マイル以内の上空を、厚紙に1インチ四方の穴を開けてそれを目から約30センチ離してかざし、その穴を通して観察」した色（Wikipedia「空色」より）である。他の“[徒](#)”の炎の色も、何か非常に厳密な定義があるのかもしれない。

つまりその天候状態・時間なら「空色」の炎をニューヨークではなっても目視は難しいわけだ（気配でわかるけど）。

クロードはおそらく空色の『[サックコート](#)』をまとっているので、晴天の空中ではほとんど保護色になる。これで誰かに[気配](#)隠蔽の自在法をかけられたら、厄介極まりなかったな。

外伝第三巻で再登場するのかな。